

令和元年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

	特定非営利活動法人 ワーカーズわくわく	代表者	理事長 飯塚陵子	法人・ 事業所 の特徴	今年13年目を迎え地域との連携も強固になり利用以外の相談も増えてきており利用者のみならず地域のニーズにこたえることができてきたことは事業所にとってはうれしい結果である。ベテラン職員に加え、20代の新人職員2名が入り全体の若返りが実現した。人材育成に力を入れており、職員のスキル向上に反映できている。
事業所名	わくわくの里	管理者	飯塚 陵子		

書面参加	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	0人	1人	1人	1人	4人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価から見えてきた課題に対して具体的な取り組み方法を決定し、研修委員会の協力のもと進めて行く	課題が具体化されたことや研修委員会の協力で計画的に取り組めたことで高評価の結果となった 個々の意見も具体的に記述があり職員のスキルも上がってきた	全職員が取り組むことができている回数を重ねることで目的意識も向上しているように思う	計画的に自己評価実施を進め、内容に向き合う時間を職員に提供できるよう配慮していく
B. 事業所のしつらえ・環境	年間6回の会議を2回は自治会集会場を利用させていただき事業所内も引き続き見学して様子を直接見ていただく	自治会集会場の利用は活用できなかった。事業所内での開催は様子も把握できるため。結果的には良かった	参加人数が多いのでスペースとしては手狭な感じだが、施設内の様子や作品を見ることができ良く様子がわかる	年度末の会議は自治会集会場を利用させていただき 事業所内の使いやすさの見直しをすすめ改善していく
C. 事業所と地域のかかわり	里だよりの配布継続と共に、サロンへの顔出しを多くの職員に担ってもらおう。職員全体が地域に関心を持ち関わりを深めていく	数名の職員がサロンに出向くことができたが後半はコロナの影響もあり地域との関わりは控える状況となった	区域の皆さんに“わくわくの里”の名前が残るかかわりかたを検討してみると良い 民生委員さんとの関係を深めていくことは重要だ	区社協作成のトイレマップへの掲載参加をした。新型コロナ感染予防を行いながら地域とのかかわりの工夫を検討していく
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	あんしんカードの最新情報を全職員が利用者担当で受け持ち、責任をもってカード内容の記入およびチェックを行っていく 内容について職員間で共有していく	あんしんカードの最新化を全職員が分担して担当できた。新たな情報も深掘り出来、職員自身も利用者をより理解することができたようだ	あんしんカードを活用し利用者の生活や地域の理解が進んだことは良かったと思う 情報の更新も随時行ってもらおうと良い	運営推進会議の中で、利用者以外の情報共有をテーマにとりあげていく 里だよりの内容を工夫し地域情報をおりませっていく

E. 運営推進会議を活かした取組み	参加職員の年間計画を立て必ず参加する。まずは参加することを重要と考え職員には負担のないよう配慮する	年間計画に合わせて参加の体制を整えたが、業務の関係で参加できない会もあった 参加した職員からは高評価だった	利用者以外の『心配な人』のかかりかたを考えていくことは大事なことだ 地域と施設が連携をしながら情報共有を継続していくことが必要となってくる	まだ参加できていない職員を優先して運営推進会議への参加を年間計画に入れていく
F. 事業所の防災・災害対策	自治会長、副会長の協力を仰ぎ、避難訓練への参加協力をお願いする。訓練の中で出た課題や実施内容などをおたよりなどで近隣へ伝え周知していく。	避難訓練を運営推進会議開催日と合わせることによって事業所以外の参加者が可能になり、現状課題も一緒になって検討することができ効果的だった	訓練継続により消防署の担当者や責任者が顔見知りになることは良いことだ。	今年度も年 1 回は消防立ち合いの避難訓練と運営推進会議を合わせた日程で実施する

2020年5月11日9:00 横浜市介護事業担当者に電話確認 (書面会議での報告で可能との了解をいただいた)